

ふれあい看護体験を 開催しました

6東病棟看護師長 吉中 浩子



毎年5月12日は「看護の日」です。21世紀の超高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を私たち一人ひとりが分かち合う必要があります。こうした心を、老若男女を問わず誰でも認識するきっかけとなるよう、旧厚生省により「看護の日」が1990年に制定されました。近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日となりました。この日を含む週の日曜日から土曜日までが、「看護週間」です。メインテーマは「看護の心をみんなの心に」で気軽に看護にふれていただける楽しい行事が、全国各地で行われました。その一環として多くの地域で保健医療福祉施設が市民のためのドアを開き、見学や簡単な看護体験、関係者と交流するイベントが行われました。

当院においても、5月12日(土)に「ふれあい看護体験」を開催しました。社会人1名、高校生44名(男子1名)の参加があり、ほとんどは県内からでしたが、今年は広島からの参加もありました。

開会の挨拶で、西山副院長は「今後さらなる超高齢社会になることから、従来の治す医療からケアする医療、予防する医療体制が必要。国の方針も介護やケアの面に力を注い



でいる。看護の日のこの体験で『看護の心』の大切さを理解してもらえるとうれしい」と話し、次に槌田看護部長が病院の機能や済生会の成り立ち、当院の概要、看護体制や看護活動について説明しました。

その後4グループに分かれ、ヘリポート、緩和ケア病棟、小児病棟、産婦人科病棟、救急センター、患者サポートセンターを見学しました。見学後は各病棟で、看護ケアの体験を看護師と共に行いました。初めは患者さんに話しかけるのも緊張した様子でしたが、清拭や足浴を行って、患者さんから感謝の言葉をいただきうれしそうな笑顔が印象的でした。

昼食は当院の栄養科が常食(何も制限がない食事)を準備しました。坪井管理栄養士が「医師や看護師と話し合い





ながら栄養状態の改善や食事指導を行っていること、病室訪問で患者さんとも話し、食事を工夫していること」などを説明しました。調理師や看護師を交え、交流会をしました。リラックスした雰囲気の中、その日体験したことや疑問に思ったことなどの意見交換ができました。「看護師の仕事の大変さややりがいを知ることができた。楽しかった」「洗髪をする時の患者さんへの気遣いがよくわかった」「貴重な体験ができた」「病院食もとてもおいしかった」という声が多く聞かれました。「看護師や他の職員も優しく、当院への興味や関心が高まり、看護師になりたいという意志がますます強くなった」という参加者もいました。当院の看護師からも「感想を聞くことで、自分たちの看護の振り返りができ、うれしかった」という声があり、とてもよい交流会ができました。

最後に岡山済生会看護専門学校の藤原教務主任から「看護の道」というテーマで看護専門学校の特徴や教育課程について説明しました。実際に「ふれあい看護体験」に参加経験のある看護学生の「『ありがとう』と言われて、信頼される看護師になりたい、看護してもらいたいと思われる看護師になりたい」という話を紹介し、「学習や実習は大変だが、看護師は人の一生に関わるやりがいのある仕事。まずは今の勉強をしっかりと

すること、周りの人の顔や表情を見て話をするコミュニケーション能力をつけてもらいたい。その能力はどの職業についても大切である」と話しました。

昨年の当院でのふれあい看護体験に参加した36名のうち13名が、今年岡山済生会看護専門学校に入学しているそうです。「ふれあい看護体験」が看護の仕事の理解につながり、看護師を目指す一つのきっかけになってくれればと思います。現在は男性の看護師も多くなっています。興味、関心のある方は、参加してみたいかたがですか。来年も多くの方のご参加をお待ちしています。



看護師を募集しています



看護部では、岡山県内外の学校訪問や就職説明会をとおして、看護師の募集を行っています。岡山済生会総合病院と一緒に働きませんか。お一人からでも見学を受け付けています。興味のある方は人事課までぜひご連絡ください。

TEL:086-252-2780(人事課直通) 平日の午前8時30分～午後5時の間にお電話ください。